

## 「ペトロの離反の予告」

2014年11月24日

マルコによる福音書 14 章 27 節～31 節。イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆わたしにつまずく。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散ってしまう』／と書いてあるからだ。しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」するとペトロが、「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません」と言った。イエスは言われた。「はっきり言うておくが、あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」ペトロは力を込めて言い張った。「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません。」皆の者も同じように言った。

記念すべき「過越の食事」が終わった。一同は賛美の歌を歌った。どのような讚美歌であったのであろうか。興味深いのが、それを知ることはできない。男たちの太い声の合唱であっただろう。その後、夜道をオリーブ山に向かった。オリーブ山の道は、一行の通り慣れた道であった。主イエスは歩きながら「あなたがたは皆、わたしにつまずく」と、ゼカリヤ書 13 章 7 節「わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散ってしまう」の言葉を引用して言われた。そして更に「しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤに行く」と言われた。弟子たちのつまずきを予告された訳である。

弟子たちは仰天した。彼らは主イエスを愛し尊敬し、全てを捨てて従ってきた。つまずくことなどあり得ないと主イエスの言葉に不満をたぎらせた。その時、例によってペトロが真っ先に口を開いた。「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません。」第一の弟子を自認する彼らしい発言である。すると、主イエスは「はっきり言うておくが、あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう」と言われた。ペトロは力を込めて、怒ったように応答した。「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません。」このペトロの気持ちに嘘はない。彼は主イエスに全身全霊をかけて従っていた。主イエスのためなら、命を捧げようという思いであった。他の弟子たちも、同じように命を賭して追従を表明し合った。主イエスは弟子たちの自分への一途な信従を知っていた。しかし、彼らの弱さも知り抜いていた。弟子たちは主イエスが十字架にかかって殺されるなどとは思ってもしなかった。主イエスと弟子たちの間には深い乖離があった。

主イエスは弟子たちのつまずきを予告しているが、それを赦し「わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く」と再会を約束している。ルカ福音書 22 章 31 節、32 節に次のように書いている。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」シモンはもちろんペトロのことである。主イエスはペトロの弱さゆえの離反を知っていた。しかし、彼のために、信仰が無くならないように神に祈り、執り成して下さる。その祈りを神は聞かれ、ペトロは立ち直る。その時には、兄弟たちを力づける働きをするようにと言われた。主イエスの執り成しの祈りは私にも、また全ての人々にも及んでいる。人は皆、つまずき、くずおれる。しかし、主イエスの祈りの中に置かれている。だから、私たちは立ち直っていける。これこそが福音である。